

令和6年度 第14回白山市ミライ会議【概要】

日 時 令和6年9月21日(土)14:00～15:00

場 所 笠間コミュニティセンター

テーマ 【防災】地域防災

出席者 12人〔石川、柏野、笠間、宮保、加賀野地区の地域コミュニティ組織の防災担当ほか〕



◆昭和9年のような豪雨時、手取川ダムの洪水防止機能に懸念

(出席者①)

一昨年8月4日の大雨では、白山ろく地域に甚大な被害が生じ、手取川も氾濫注意報が発令されました。手取川の氾濫は過去にも何度かあり、特に昭和9年の豪雨は、百万貫の岩をも動かすほどの凄まじいものでした。昭和9年のような大雨が降った際に、手取川ダムは洪水防止の機能を果たすことができるのでしょうか。

また、手取川が氾濫した場合、市が策定している市民の避難誘導計画を、我々にも周知してほしいと思います。

(市長)

一昨年の大雨では、手取川ダムに大きな問題はありませんでした。山の崩れを止める砂防堰堤とダムで、治水としては大きな効果があると思います。線状降水帯などで水が手取川に流れ込んだ場合、平野部の用水に影響しないように、手取川七ヶ用水土地改良区では、リモートで水門を下ろせるような体制を作っています。こうして備えてはいても、決して安心できない時代になってきました。手取川が氾濫した場合の防災マップを作成し、どこが浸水区域かを公開しています。マップを確認し、横移動の避難がいいのか、垂直避難がいいのかを考えてもらえればと思います。

◆能登半島地震の際の津波警報で巻き起こった混乱 手取川の氾濫時には適切な情報提供を

(出席者①)

手取川の氾濫時には情報発信が重要です。元日の地震では、3mの津波が予想されるとの報道があり、多くの人々が恐怖を感じた結果、安全な地域にいる人々まで避難を始めてしまい、各地で渋滞が発生しました。氾濫発生時には川から離れる動きが想定されます。適切な情報提供と整備をお願いします。

(市長)

現在地が海拔何mであることを明示することが必要だと思う。公共の放送では、地域を限定して情報を流すわけではないので、どうしても早く逃げろという報道になってしまいます。市内は、南北に大きな道路はありますが、東西の道路は狭く、渋滞が発生すると進めなくなりま。東西側の道路の拡幅についても検討しなくてはならないと思います。

(出席者①)

地区の防災訓練では、図上訓練が一番効果的で、住民が実感を持って防災を考えることができる方法だと思います。訓練を行うにあたっては、地域全体を俯瞰できるような地図が必要で、市に支援してもらえればと思う。

◆避難場所の鍵の取り扱いが課題 キーボックス設置など最適な方法を模索

(出席者②)

石川地区ではコミュニティセンターが避難場所となっていますが、1月1日の地震時には多くの住民がセンターよりも小学校に避難したいと希望しました。職員がカギを市役所まで取りに行きましたが、渋滞の影響でカギの開錠が遅れ、帰宅した住民もいました。会議等でコミュニティセンターや小中学校にも新たにキーボックスを設ける方針だと聞いていますが、具体的な計画があれば伺いたいです。

(市長)

避難所の鍵に関する問題は、他のミライ会議や全国的にも話題になっています。富山では地震の揺れを感知したら鍵が外れるといった設備もありますが、誤作動のリスクがあります。市役所の職員がカギを取りに行く場合も、渋滞等の懸念があり、近隣にカギを預ける方法も被害があれば難しく、多くの人に預けることも問題があります。急な事態には予測できない問題が生じます。現時点では、キーボックスを置いて、暗証番号で開く方法を考えています。

(危機管理課長)

コミュニティセンター長会で、キーボックス設置のお願いをしました。話に出た、感震式なども承知していますが、それぞれにメリット・デメリットがあります。まずはキーボックスを設置し、後に改善を重ねていきたいと考えています。キーボックスは電池を使用し、毎年、地区支部職員が点検を行い、電池交換を行うとともに、コミュニティセンターとの連携も図る予定です。

また、小中学校においても、校長会から要望書を受け、キーボックスをどこに設置するか検討しているところです。

(市長)

まずはキーボックス設置による対応で、少しでも早く駆け付けた人が避難場所の鍵を開けられるようにしたいと思います。

◆非常時の通信手段としてアナログな手段も検討を 市では衛星電話を配備済み

(出席者③)

防災士を務めています。現在はスマートフォンが主流となっていますが、災害時は電話回線が集中し、通信が繋がらなくなる可能性があります。アマチュア無線を持っている人が市内に何十人かいると思うので、災害発生時にはこうしたアナログの連絡手段も有効ではないでしょうか。個人の持つアマチュア無線固定器と、市や消防との連絡体制の整備をお願いしたいです。

(市長)

アマチュア無線は常に充電状態であることや免許も必要になってきます。市では、非常時の通信手段として、本庁と支所に衛星電話を配備しています。

◆能登半島地震の際、二次避難所となった各地区コミュニティセンターの動きを情報共有

(出席者④)

1月1日の能登半島地震において、笠間コミュニティセンターも、実際約40人が避難しましたが、鍵を開けるのが遅れ、小学校に行っても鍵が開いていない状態でした。災害時のパニックを経験し、想定通りにいかないことを知る良い経験だったと思います。他の地区のコミュニティセンターは、二次避難所としてどのように運営したのか知りたいです。

(出席者②)

笠間コミュニティセンターは平屋なので、津波情報が出ると大変だっただろうと思います。石川地区は海拔19.5mなので、津波の心配はないのですが、それでもコミュニティセンターに避難する人が来ました。車いすの人を6人がかりで2階に運んだり、ペットと避難してきた人のために部屋を別に設けたりしました。

(出席者⑤)

石川コミュニティセンターには実際120人ぐらいの人が避難し、毛布も飲み物も少ない状態でした。一晩中、市職員の女性が避難所を管理してくれましたが、ペットとの避難、車いすの問題などいろいろなことが起こり、大変でした。

(出席者⑥)

宮保地区は海拔15mあり、1月1日にコミュニティセンターに来たのは1家族だけで、電話での問い合わせも3人くらいでした。テレビ放送を受けて、地区内でも車で逃げた人がたくさんいたようです。東西の道は渋滞し、踏切の遮断機が折れて通れなくなりました。後に開いた反省会や研修会を踏まえて、今回の地震ではそこまで逃げる必要はなかったという結論が出ました。地域の皆さんには、正確な情報・知識を持ってもらうことが大事だと思います。

(出席者⑦)

柏野地区の個別の話になりますが、安否確認をする一次避難所に道の駅めぐみ白山を指定できないかという声が住民から上がっています。危機管理課にお願いに行ったら、別の避

難所に指定されているので難しいと断られました。

(市長)

道の駅めぐみ白山は、白山市の指定緊急避難場所、駐車場は国土交通省の防災拠点自動車駐車場に指定されています。柏野地区や国道8号線を走っている人が緊急に避難するのは、道の駅しかない状態です。

(危機管理課長)

指定緊急避難場所になっているので、一次避難場所としてそぐわないという話だと思います。上柏野町の一次避難場所を、浄水場から道の駅に変更したいという話は、個別に相談させていただきたいと思います。

◆コミュニティセンターには、3日間稼働できるよう発電機と給電可能な設備を順次配備

(出席者⑤)

意見交換に先立って、防災に関する市の取り組みについて市長が話された中で、防災庁舎を整備する際、現在地下にある電源施設を上階に上げると話していましたが、その電源の燃料はガソリンを使用しているのでしょうか。石川コミュニティセンターには小さな発電機とガソリン5ℓが配備されていますが、これだけではすぐになくなってしまいます。発電機の燃料を、ガソリンや軽油、重油からソーラー充電できるポータブル電源にしてほしいです。

(出席者⑥)

宮保地区と笠間地区も、ガソリンを燃料とした発電機です。

(市長)

市庁舎では、全体の電源を確保するために燃料を使用した大きな発電機が設置されており、これは市役所全体が電源を失った際に機能を維持するためのものです。

コミュニティセンターには3日間稼働できるよう軽油の発電機が配備されており、加えてソーラー充電や電気自動車からの給電が可能な設備を整えています。具体的には、コンセントが赤と緑に色分けされており、発電機と電気自動車からの給電を利用できるようになっていますが、ポータブル電源は配備していません。

(出席者⑧)

外国人の防災に関しては危機管理課と個別に話したいと思います。

(市長)

今日は、様々な意見をありがとうございます。想定しないような災害が多くなってきました。防災に限らず、日頃から様々な面で地域のコミュニティがしっかり作り上げられていれば、想定外のことが起こっても、住民同士助け合っていけると思います。市としても、しっかり対応を考えていきたいと思います。